

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 地場産業の技術承継・新商品開発プロジェクト

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業技術課 技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内 3096)

E-mail： c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 14,423千円 (前年度予算額：30,331千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	30,331	13,821	0	0	0	0	0	0	16,510
要求額	14,423	6,019	0	0	0	0	0	0	8,404
決定額	14,423	6,019	0	0	0	0	0	0	8,404

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

工業技術研究所、産業技術センター、情報技術研究所を統合した産業技術総合センター、食品科学研究所、さらには各研究所が蓄積してきた各分野(機械・金属・情報・食品・セラミックス・木材)の基盤技術を活用し、地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発を強力に支援するとともに、熟練者の技術をデータ化・標準化するなどして承継し、地域企業の技術力の底上げと持続的発展による産業振興を推進する。

(2) 事業内容

【地場産業分野】

- ・岐阜県式切れ味試験の標準化・普及を進めるとともに、刃物の評価に適した非接触形状評価技術の開発を行う。これにより、県刃物製品の競争力を強化するとともに、新たな関ブランド商品の開発を支援する。
- ・圧力鋳込み成形時に使用する様々な坯土(一般磁器、強化磁器等)の、調整条件、鋳込み成形条件等のデータベース開発を行い、データベースを活用した新規圧力鋳込み成形機を開発する。
- ・木製品の質感や形状をバーチャル情報であってもリアルに伝達する手法を開

発する。また、手法開発に必要となる実物の 3D 形状データの計測手法を開発する。さらに新規伝達手法を活用した、より質感の良い木製品を開発する。

【食料品分野】

- ・岐阜県内で栽培されている米を加工原料として有効活用し、「酒米」「低グルテリン米」「ハツシモα化米粉」を使った新たな商品開発や用途開拓を行う。さらに、製造技術のデータ化による技術承継を進めるとともに、県産米の需要拡大、流通価格の安定を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

地域産業を活性化させるために地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発の支援を行う。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,034	職員旅費（企業、共同研究機関との打合せ、学会参加）
需用費	4,372	研究開発のための各種消耗品
委託料	4,253	部材の外注加工、試作品製作委託
使用料	241	研究開発機器の使用料
備品購入費	3,745	研究備品の購入、書籍（規格書）
その他	778	有識者への報償費、試作品運搬費、学会参加負担金等
合計	14,423	

決定額の考え方

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

各研究所の研究推進計画に沿って、成長産業から地域産業まで地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発を強力に支援するとともに、地域企業の技術力の底上げと持続的発展による産業振興を推進する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移	現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目標	達成率
技術移転の推進	(H)	(H) (H)	(R1)	6件 (R6)	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

○刃物形状測定技術の開発に向け、レーザ顕微鏡をはじめとする非接触形状測定装置によって測定した刃物形状を結合するプログラムの開発を実施している。

○ハツシモα化米粉を用いた新製品開発に向け、米粉パン作成可能な米粉の特性把握及び米粉パンの試作を実施している。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

○今後、複数角度からの形状測定を実現するための刃物専用測定治具の開発が見込まれる。

○ハツシモα化米粉を用いた新製品開発が今後見込まれる。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>企業ニーズ調査の中で、県の成長・雇用戦略と合致しており、要素技術の進化やグローバル化世界経済のデジタル化、Connected Industries による産業構造の大きな変化、高齢化、人口の現減少による技術伝承の問題等の社会的問題などに対して必要とされている課題を取り上げていることから、必要性は高く、地域からも期待されている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>研究課題の内容について、ヒアリングを行い本年度実施内容の確認を行うとともに、進捗確認を行った。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>研究課題に対する外部評価を実施することとしており、得られた意見に応じた軌道修正、および効率化を図る。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>○地域企業のニーズに基づいて、柔軟に対応していく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>○業種別懇談会等で得られる企業ニーズに基づき、研究課題の方向性を微修正し、技術開発や新商品開発の強力な支援を進める。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	